

部活動の地域連携・移行に向けた環境整備事業

第3回意見交換会 まとめ

日 時：令和5年11月21日（火）14：00～16：00

場 所：岡山県立図書館 多目的ホール

参加者：市町村スポーツ・文化担当主管課及び市町村教育委員会 37名参加

1 県の報告（第2回意見交換会までの意見交換の内容について）

※別紙スライド資料及び第2回意見交換会「競技団体等実態調査資料」参照

【主な報告内容】

○第1回意見交換会（6月9日（火））

- ・市町村・スポーツ団体・文化団体関係者など約70人が参加
- ・主な意見として、市町村からは教員の兼職兼業等の指導者、財源、地域移行を進める手段・方法、連携など、競技団体等からは市町村と同様に指導者や財源、他には活動場所の確保についての意見

○第2回意見交換会（8月25日（金））

- ・競技団体及び文化団体と中体連及び中文連から約30名が参加
- ・運営団体や実施主体になり得る立場からの意見交換
- ・指導者について現時点では、地域に限られるが、要請があればいつでも協力できること、財源の支援、学校施設の利用に係る活動場所、積極的な広報や保護者の理解、学校のバックアップの必要性などの周知・理解、また、可能な限り受け皿として協力したいという意見
- ・スポーツ団体は、剣道と陸上競技については、全県で可能、その他の多くの競技は、県南を中心に可能、不可能な競技については、地域クラブ活動について現状把握ができていないということが理由
- ・文化団体は、吹奏楽については全県で可能、スポーツ団体と同様に、県南を中心に可能、不可能な分野については、地域クラブ活動について保護者のサポートが必須という回答
- ・文化団体の中で、中学校の部活動にない分野だが、地域クラブ活動に協力的な分野が多いことが特徴的

2 実証事業の報告（県教育委員会及び和気町の取組について）

【主な報告内容】

(1) 県教育委員会の取組（県教育庁保健体育課から）

- ・国の委託事業を受け、今年度、県内では4市町が事業に参加
- ・玉野市、備前市は、今まで行っていた合同部活動での拠点校方式

- ・早島町は指導者派遣方式
- ・和気町は総合型地域スポーツクラブを巻き込んだ派遣方式
- ・今後、4市町の実証事業の成果発表会を2月上旬に開催予定

(2) 和気町の取組（和気町教育委員会 学校教育課から）

- ・部活動を「部活動の枠組み」からいったん取り払い、子供たちがいろいろなスポーツ・文化に体験できるという町作りの視点が必要なのではと思い、本町の課長会や議会でも説明してきた
- ・部活動の地域移行について、スタートしたのは令和4年9月から
- ・まずは、検討委員会を立ち上げた。メンバーも町作りの観点から「まち経営課」を入れた。「まち経営課」では移住者の情報を把握しており、彼らの中には一芸をもっている人もいる
- ・生徒の移動などを考えるため、スクールバスを担当する「総務危機管理課」もメンバーに入れた
- ・検討委員会で出てきた課題は、県教委が委嘱する地域移行支援コーディネーターの高岡先生や清音の総合クラブの方等の意見をもらいながら、一つずつ解決していったという状況
- ・和気町では総合型地域スポーツクラブが地域に根付いていることから、受け皿については、「総合型スポーツ和気クラブ」を中心として受け皿を整備している。現在ある資源を活用している形
- ・長期的な視点にたった計画として、「地域のクラブに通っている子供もいる」、「部活はあるが受け皿がない」などの課題を整理した
- ・課題ごとにいつから「実施していくか」「どのように実施していくか」というグランドデザインを作成した

【取組例】

①剣道部

- ・元々生徒が所属しているスポーツ少年団で休日（土曜日）の活動を行うことで移行済み

②バスケットボール・卓球

- ・総合型地域スポーツクラブに設置されており、その中で活動ができる2競技について一部試行
- ・生徒が総合型にお金を払う形ではなく、町が参加費などのお金を払う形とし、「体験会」という形
- ・バスケットボールクラブには指導者はいない。大人も子供も楽しく活動しているクラブ。このクラブは移住者のコミュニティにもなっている

③ソフトテニスと陸上競技（学校と総合型が連携）

- ・ソフトテニスは一番熱心に活動している
- ・昨年度までは、町内2中学にソフトテニス部に専門の顧問がいたが、人事異動に伴いソフトテニス専門の教員がいなくなるという事態になった
- ・現在、総合型が受け皿になり活動をしている。今年度から佐伯中学校も含

め取り組みをはじめ、指導者も部活動指導員であるため、お互い顔がわかる関係が築かれている

- ・陸上競技は和気地区・佐伯地区それぞれで実施
- ・時間は平日の18時から実施しており、専門の指導者の指導の下、実施

④吹奏楽

- ・本年度から開始

⑤バドミントン

- ・中学校での部活動としてはなかった
- ・生徒からの要望が多く今年度から総合型で実施することにした
- ・競技力向上を目指す「教室型」と楽しくバドミントンを楽しむ「サークル型」の二つを設置
- ・中学生には気軽に楽しめる「サークル型」が人気

⑥野球

- ・本町として実施困難
- ・2中学校の部員あわせても9人に満たないという現状
- ・現在は、クラブに入っても大会に出れないという状況もあり、今後は、広域連携が必要と感じている

- ・すべてがうまくいっている訳ではなく、野球は立ち消え、サッカーはニーズはあるが対応できていない状況がある。

- ・町民への説明については、直接的には中学校主催の入学説明会において説明をしていく
- ・町民全体には広報紙を活用して知らせた
- ・学校の現状として、練習試合ができない、そもそもチームが組めないという実態を知ってもらうということを知らせた
- ・令和5年8月に再度町民広報で町民に対して説明した
- ・町議会への説明としては、地域移行を正しく認識してもらうことが必要
- ・総合型地域スポーツクラブを活用して受け皿になってもらうこと等を説明
- ・総合型地域スポーツクラブ側でも夏前に募集チラシを改めて作成したり、紹介動画を作成したりと取り組みをした
- ・指導者の質の向上としては、クラブの指導者に対して中学生の発達段階に応じた指導のあり方を学ぶため、体罰・ハラスメント・中学生期のトレーニング方法などについての研修を行う予定（11月26日開催済）
- ・和気町スポーツクラブは、スポーツとは言っているが、理事長も文化部についても対応したいという気持ちがあったため、文化部についても総合型地域スポーツクラブで対応している
- ・人材については、人づてに様々な人をお願いをしてきた
- ・前提として「どんな思いで部活の受け皿作りをするか」を丁寧に説明してきた

- ・具体的に吹奏楽では、①地域おこし協力隊、②元地域おこし協力隊、③保護者
- ・③の保護者では、陸上クラブに子供が通っている保護者が吹奏楽をしていると人づてに聞いて、3人目を確保した
- ・人的なネットワークを持っているのは強み
- ・町内に住んでいる人は多くのネットワークを持っている
- ・吹奏楽の場合、顧問の先生にも納得してもらうことが必要だった
- ・学校部活動の邪魔をするのではなく、吹奏楽の活動をプラスにするものということを説明
- ・顧問の先生は、「共感できる」という話もある一方で、「納得できないがチラシは配る」という方もいた
- ・学校の先生はどう思っているのか、地域の人はどう思っているのかと考えるだけでなく、直接話すことが大切
- ・吹奏楽の活動では、大人12人 中学生7人 小学生3人などの参加があった
- ・吹奏楽は様々なパートがあるため、指導が難しい面もある
- ・楽器や楽譜をどうするかという問題もある
- ・和気町では、佐伯中学校に使っていない楽器があると聞き、佐伯中学校の楽器を借用することにした
- ・人材の確保については、業務上関わる団体・個人を通じて人をつなげていく方法も大切だが、私人としての関わりを持つ人を大切にすることも大事なことと思う。その方が人が集まった
- ・情報共有の大切さについては、グーグルスプレッドシートやラインを活用し、日程調整などを行った
- ・事務局の役割分担も大切。和気町では学校教育課と社会教育課があり、学校関係の調整と学校以外の調整を分担している
- ・今後の課題としては、部活動の地域移行については、教育委員会だけでやるべではないと感じている
- ・新しい町作りとして考える必要があり、たとえば、廃校所管の財政課やふるさと納税活用などの部署も巻き込むことが重要と思う

【和気町に対する質疑応答】

○美作市：国の補助金はどのように活用しているか

和気町：①再委託として町が使えるもの

例えば、謝金・交通費・総合型の事務補助員の人件費

②総合型・少年団に出す再々委託するもの

例えば、指導者謝金・会議謝金・消耗品・チラシ・印刷製本など
また、コーディネーターは理事長を当てています。

○瀬戸内市：①指導者の資質向上の研修について、地域の指導者もここまで専門的なことは遠慮したいということもあるかと思う。行政と地域の温度差や人数なども知りたい

②ふるさと納税についても聞きたい

和気町：①指導者は不足している。テニスの指導者は1人。男女それぞれ見ているのでもう2人ほどほしいと思っている。陸上は平日夜は指導できるが、平日の15時からの指導となると、いないのが現実
行政と地域の温度差については、11月26日の環太平洋大学の先生を招いての指導者研修会を企画しましたが、町が思ったほどの人数が集まっていないのが現実

②はまだ動いていない

長崎県長与町では企業版ふるさと納税を活用していると聞いている

事務局補足：長崎県長与町はスポーツ庁のホームページにも好事例として取り上げられている。後日ご覧いただきたい。

○吉備中央町：①参加している生徒の傷害保険について

②国の支援がなくなった場合は、どうするか

和気町：①予算の執行の都合もあり、今年度初めだと個人負担になったが、4月末以降からの参加だと国の事業として町が負担している

②基本的には受益者負担と考えている。クラブに会費を払って参加という形になるかと思う

3 意見交換（各市町村の実態を踏まえた意見）

※スライド資料と市町村実態調査回答資料（A3版縦）参照

○各市町村からの意見の調査結果をまとめている。まずは、その内容を説明し、その後、市町村からの意見を聞きながら、お互いに情報共有していく

【休日の地域移行の時期】P. 10

- ・ 休日の移行時期について、運動部・文化部ともに未定が多い
- ・ その中でも、運動部は、いくつかの市町村で来年度から移行すると回答
- ・ 文化部も同様に令和7年度から移行すると回答
- ・ いくつかの市町に移行のイメージをお聞きする

○勝央町

- ・ 運動部は7年度実施に向けて移行できるところから実施する予定
- ・ 町内では、中学校が一校で運動部が9、文化部が2ある
- ・ 受け皿としては、スポーツ少年団・スポーツクラブなどを想定している
- ・ スポーツ団体の関係者や顧問の先生などを含めて2回検討会を行った
- ・ 検討会では前に進まなかったのが実態で、今は動いていない

- ・その後、各種目ごとの団体の代表者と対話をし、どんな支援があればいいかなどを個別に話し合った
- ・剣道・柔道は、道場が古くからあり、幼い頃から剣道などをしている子どもたちを対象に、来年度から移行開始の予定
- ・町としては、剣道・柔道を進めて、その後、他の部活も移行を進めたいと考えている
- ・現在の課題は、規約策定、賃金の支払いの方法や顧問の関わりなど検討していくことも多いが、今後も子どもたちの運動の場などの整備に向けて頑張っていきたい

○総社市

- ・第1回目意見交換会から進んだところを説明する
- ・8月に推進計画を作成、9月に指導者研修会を開催し、青山学院大学原監督の講演会を開催した
- ・男女バスケ部は外部指導者の指導ができていたので、10月1日から休日は地域移行を試行
- ・市内では中学校合計で43部活動あるため、小規模校や合同でできるものは合同で行い、大規模校では地域移行できる部活については、地域移行を進めていく方式を考えている
- ・外部指導者も多くはないため、兼職兼業についても教員の理解を得て考えていきたい

【平日の地域移行の時期】 P. 11

- ・平日については、ほとんどの市町村が未定であり、国の方針が出てからという回答が多い

【運営団体の想定】 P. 12

- ・運動部は、スポ少、市町村スポーツ協会、総合型地域SCの順で、スポーツ関係団体の想定が多い
- ・文化部は、文化団体、教育委員会等の自治体の順が多い
- ・中には、真庭市の地域学校協働本部、美咲町のNPO法人、井原市の既存のクラブがあった

○真庭市

- ・地域は広いが小規模校が多いのが特徴
- ・地域のつながりが強いのも特徴
- ・現状としても地域の方が学校に入っていたりするので、小規模の特色を生かしながら進めていきたい

○美咲町

- ・NPO法人を運営主体として想定し、現在でも、既存の放課後教室や保護者教室を実施
- ・旧旭町地区で卓球のレクレーション教室（年間500円）を行っている
- ・その指導者が部活にも入っているという例もある
- ・上級者向け卓球教室は1回200円となっている
- ・課題としては、送迎時間の問題や時間が合わない、18時以降でないとかラブ活動ができないなどが上がっている

○井原市

- ・現状として、小規模校が増えており、具体的には、1000人いた中学生が300人になっているという現状
- ・現在の中学生は、部活は楽しくやりたいという声が多いのが特徴であるため、総合型地域スポーツクラブを利用して10程度の講座を用意している
- ・競技性を重視したアスリートクラブを作り、ジュニアで頑張ってきた生徒を指導してきた人の地域クラブネットワークを作ろうとしている
- ・保護者からは「地域クラブだとどんな先生か不安」という声もあり、今後、ネットワークに入るにはコンプラ遵守などの規制をして部活に代わるものであることを保護者等に紹介していければと思う

【指導者の想定】 P. 13

- ・運動部はスポーツ団体や部活動指導員が多く、どの項目も平均的に多い
- ・久米南町の地域おこし協力隊に興味がある
- ・文化部は、文化団体が一番多く、次いで、兼職兼業の許可を得た教員や部活動指導員、退職教員など学校関係者が多い

○久米南町

- ・地域おこし協力隊も選択肢の一つとして想定している
- ・「スポーツ振興」という形で地域おこし協力隊の募集をかけて、その中の業務として部活も指導してもらおうということを考えている
- ・最終的には、その地域おこし協力隊の人が、定住し運営団体の事務員になるという形も想定している
- ・最近では運動分野の協力隊の要請が他自治体でも増えているので、募集はしたが、採用に至らなかったのが現状

【指導者に求める条件】 P. 14

- ・運動部のみ
- ・条件としては、専門的なスキルが圧倒的に多く、その他の意見で「長年にわたって指導にあたることができる」「子供の教育に理解・関心がある」「市が設定する研修の受講」「指導者の熱量」などがあつた

【人材バンク】 P. 15～P. 16

- ・運動部の「おかやまスポーツナビ」では、8割以上の市町村、文化部の「マインイングおかやま」では、7割以上の市町村が「知っている」と回答
- ・知っていると回答した市町村のうち、多くの市町村が利用すると回答
- ・中には、「知らない」「利用しない」という回答があったため、県としては更なる周知や機能の充実を図っていきたい

【人材バンクについての主な意見】 P. 17

※資料参照

- ・県としては、意見を参考に、人材バンクの充実に向け取り組んでいきたい

【県への要望】 P. 18

- ・やはり、補助金等の財政支援についての意見が多く、続いて、指導者の質の向上及び量の確保についてが多い
- ・その他にも、情報発信や受け皿の整備についての要望や意見があった
- ・今後は、県教育委員会とも連携を図りながら、県として何ができるか検討していきたい

【移行の手順】 P. 19～P. 20

- ・第1回の意見交換会や今回の実態調査の質問にあった「移行の手順」について紹介する
- ・国は協議会を設置、運営団体を確保、指導者及び活動場所を確保して最後に生徒・保護者に説明をするという流れを考えている。
- ・実際は、P. 20の山口県が示しているような流れで、協議会でニーズ把握と同時に生徒・保護者説明などを進めていくという形で進めた方がイメージしやすいと思う
- ・繰り返しになるが、地域移行については、それぞれの市町村の実情に応じて移行することになる。移行の手順についても同じで、国や山口県の手順のイメージも参考にしながら、各市町村・地域で進めてもらいたい

4 質疑応答

○笠岡市：県立学校の情報について何かあれば教えてほしい

県教育庁生涯学習課：県立中学校4校の方針としては、国の方針を踏まえて、令和7年度末の移行を目指している。今後、各中学校・部活動ごとにロードマップを今年度中に作るという形で進めている

○真庭市：部活指導員の拡充をお願いしたい。県の予算の状況を知りたい

県教育庁生涯学習課：具体的な数字はいえないが拡充に向け検討している

【参考】

事務局：今回の意見交換の場では意見がなかったが、運営団体として企業ということも想定の一つかと思う

いくつかの企業から問い合わせがあったり、経済界においても地域移行についてフォーラムを開催したりと、関心が寄せられている
具体的には、ファジアーノ岡山がサッカーだけでなく、テニスやチアなどについても広く進めたいと考えている

民間企業の中には、ビジネスチャンスと捉えている企業もあるが、今聞いている企業はビジネスというよりは指導者派遣の申し出が多い
企業としては、「生産性」の問題があるため、指導者派遣に協力する代わりに何かしらのリターンが必要と考える

以上で、第3回意見交換会を終了する
次回、第4回は年度末を予定している